

石清水八幡宮の石灯籠

石清水八幡宮の境内には、さまざまなデザインの石灯籠が約 450 基あります。社寺に灯籠を寄進して、ご利益を祈ったり、祈りが叶ったことへのお礼の気持ちを示したりすることは、昔ながらの伝統です。灯籠には通常、日付が刻まれており、寄進者の名前、事業、または祈りが記されていることもあります。

石灯籠は 13 世紀末期から 20 世紀初頭に寄進されましたが、主な小道や神社の土堀に沿って大量の石灯籠が置かれたのはもっと最近のことです。またこれらの灯籠のいくつかは、19 世紀末期以降、男山の他の場所からここに運ばれました。

石清水八幡宮で最も古い灯籠は、国指定重要文化財に指定されている永仁の石灯籠です。その灯籠の刻銘には「永仁三年乙未三月」と書かれており、永仁時代の 1295 年に寄贈されたことを意味します。灯籠は現在、神社の管理棟の隣にある石庭の一部となっています。この伝統的な枯山水庭園は、1952 年に有名な作庭家の重森三玲（1896～1975）によって作られました。白い砂は海を表しており、永仁の石灯籠と庭全体に配置された石は島を表しています。